

グループ2社合併で成長図る

大手CROと異なる事業に

トランスジェニクは、10月1日にグループ会社の新薬リサーチセンターと安評センターを合併し、創薬支援事業の中核会社を立ち上げる。合併後の新社名は同社が創業時から大切にしてきた基本理念「創一流」のもと、今後グループの中核会社として変化を恐れず果敢に挑戦し続ける意思を込めて「トランスジェニク」を承継すること

トランスジェニク

トランスジェニクは、ズ(現東証グロース)に遺伝子改変マウス事業を基幹事業とする大学発ベンチャーとして2002年12月に東証マザーズ(現東証グロース)に上場し、過去10年間にわたって事業構造の強化と事業領域の拡大を目的に積極的にCRO事業のM

とされた。親会社の商号も「トランスジェニクグループ」に変更する。トランスジェニクの高島浩二取締役は、医薬では遺伝子改変技術を柱に、薬効薬理試験から毒性試験のサービスを展開していく。国内で非臨床試験を受託する大手CROとは違う事業モデルで成長していきたいと話している。

&Aを行ってきた。

13年に新薬リサーチセンター、18年に安評セン

ターを子会社化したのも

その一環で、両社が有す

るブランドと顧客のス

ムースな承継を実現する

ため、子会社化以降もそ

それぞれの商号を承継し、事業を運営してきた。

今回、創薬支援事業を

強化するため、新薬リ

サーチセンターと安評セ

ンターを合併し、新生ト

ランスジェニクが始動

する。経営資源の集約を



高島氏

通じて、さらなる事業運営の合理化や営業の強化を実現すると共に、基礎研究・探索研究から非臨床・臨床領域までトータルサービスを提供できる中核会社を設立することで、企業価値の最大化を図る考えだ。

か、研究開発の最終ステージで実施される医薬・食品臨床試験受託サービスも提供している。一方、安評センターは21年4月に移管した遺伝子改変マウス事業を有しているほか、小動物から大動物まで網羅した安全性試験の受託が可能。特に遺伝子改変マウスを用いた遺伝毒性試験は国内外で高い競争力を誇っており、水生生物・植物を用いた環境毒性試験に強み・特徴を持つ国内で数少ないCROといえる。

試験までを受託し、非臨床試験受託大手CROとは異なる事業モデルで上位企業との差を縮めたい考えだ。トランスジェニク動物を用いた遺伝子突然変異試験に続く高付加サービス導入・開発の強化を図り、ジェノミクス事業で実施しているゲノム編集技術を用いたノックイン・ノックアウトマウスの作製、ヒトの肝臓機能が反映された「肝臓ヒト化マウス」の開発、ノックイン・ノックアウトマウスを用いた薬効薬理試験・一般毒性試験、短中期発癌試験に展開していく。

そのほか、創薬スクリーニングを目的とした「トランスジェニクゼブラフィッシュモデル」を用いた試験サービスの構築も計画している。高島氏は新会社名をトランスジェニクとした狙いについて、「トランスジェニクという社名は遺伝子改変」という意味を持つので、合併新会社もまさにそれを体現したCROを目指していくことになる」と語る。

一方、食品については従来から受託している非臨床試験から臨床試験まで一貫通貫で実施できる体制を訴求し、農業では水生生物・植物を用いた環境毒性試験で差別化を図る。医薬を中心に食品、農業でも競争力のあるサービスを提供することでCROとして持続的な成長を遂げる。

シームレスなトータルサービス

基礎・探索研究
遺伝子改変マウス作製

非臨床試験

遺伝毒性 安全性
環境毒性 薬効薬理
分析 病理検査

臨床試験

生物学的同等性試験
食品臨床試験



世界の

どこかにいる

誰かの

明日に
希望を



2024年10月1日 株式会社新薬リサーチセンターと株式会社安評センターは
株式会社トランスジェニクとして共に再出発いたします



HP



LinkedIn